

お茶の水女子大学学报

平成 13 年 9 月 1 日
お茶の水女子大学総務課

目 次

◇ 学 内 規 則	2
◎お茶の水女子大学奨学基金運営内規の一部 を改正する内規	2
◎お茶の水女子大学レクリエーション運営委 員会内規を廃止する内規	2
◇ 人 事	3
◇ 学 事	4
◎平成14年度お茶の水女子大学入学者選抜要 項	4
◇ 諸 報	21
◎事務職員特別研修	21
◎第 3 回お茶の水女子大学運営諮問会議	22
◎人事院勧告	23
◎セクシャル・ハラスメント相談員に係わる 説明会	27
◎「国立大学の構造改革の方針」についての 全学説明会	27
◇ 日 誌	28

学 内 規 則

○平成13年お茶の水女子大学規則第57号

お茶の水女子大学奨学基金運営内規の一部を改正する内規を次のように定める。

平成13年7月25日

お茶の水女子大学長 本 田 和 子

お茶の水女子大学奨学基金運営内規の一部を改正する内規

お茶の水女子大学奨学基金運営内規（昭和41年1月8日制定）の一部を次のように改正する。

第2条の表中「保井・黒田奨学基金」の欄「沿革」の項中第6号の次に次の一号を加える。

七 平成13年7月公益信託團生物科学国際基金より本基金の趣旨に賛同し本学に寄附す。

附 則

1 この内規は、平成13年7月25日から施行する。

2 第3条第2項の規定にかかわらず、保井・黒田奨学基金にあつては、利子が奨学金の資に充てるのに不十分な場合は、当分の間沿革第7号に係る基金を限度として、その一部を奨学金に充当することができるものとする。

○平成13年お茶の水女子大学規則第58号

お茶の水女子大学レクリエーション運営委員会内規を廃止する内規を次のように定める。

平成13年7月27日

お茶の水女子大学長 本 田 和 子

お茶の水女子大学レクリエーション運営委員会内規を廃止する内規

お茶の水女子大学レクリエーション運営委員会内規（昭和47年10月11日制定）は廃止する。

附 則

この規程は、平成13年7月27日から施行する。

人 事

○人事異動

発令年月日	氏名	官職等	異動前の所属・職名
◇ 採用			
H13.7.1	天野 冴子	助手 (生活科学部)	
◇ 昇任			
H13.8.1	森田 寛	教授 (保健管理センター)	助教授 (東京大学)
◇ 併任			
H13.8.1	森田 寛	保健管理センター所長 併任期間 平成15年7月31日	(保健管理センター教授)
◇ 復職			
H13.7.27	有野 理恵	職務復帰	会計課
◇ 退職			
H13.7.6	中川 聡子	臨時的任用 (会計課)	
◇ 公の名称			
H13.8.1	市古 夏生	保健管理センター所長 (免)	

◎非常勤講師

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採用				
H13.7.1	林 成任	講師 (研究機関研究員) (生活環境研究センター)	H14.3.31	
H13.7.1	前川 秀	講師 (研究機関研究員) (生活環境研究センター)	H14.3.31	
H13.7.1	小田 隆	講師 (附属高等学校)	H14.3.31	
◇ 併任				
H13.7.1	盛田 健彦	講師 (理学部)	H14.3.31	広島大学大学院
◇ 退職				
H13.7.19	安 性姫	講師 (附属中学校)	H14.3.31	
H13.8.31	ジリアン・タニュルズ	講師 (附属高等学校)	H14.3.31	

◎非常勤職員

発令年月日	氏名	官職等	任期	備考
◇ 採用				
H13.7.1	田邊 恵美子	事務補佐員 (附属図書館)	H14.3.31	
H13.7.1	松原 瑞枝	事務補佐員 (文教育学部)	H14.3.31	
H13.7.1	横山 知子	技術補佐員 (生活環境研究センター)	H14.3.31	
H13.8.20	田中 恵子	教務補佐員 (理学部)	H13.9.12	
H13.8.20	井上 京子	教務補佐員 (理学部)	H13.9.12	
H13.8.20	石渡 啓子	教務補佐員 (理学部)	H13.9.12	
H13.8.27	秋山 久子	臨時用務員 (附属小学校)	H14.3.31	
◇ 退職				
H13.7.31	小熊 和子	臨時用務員 (附属幼稚園)		
H13.8.15	猪崎 秋沙	事務補佐員 (会計課)		

学 事

○平成14年度お茶の水女子大学入学者選抜要項

一 般 入 学 者 選 抜

1. 学部・学科別募集人員

学 部	学 科 等 名	入学定員	募 集 人 員		備 考
			前期日程	後期日程	
文 教 育 学 部	人 文 学 科	55	32	11	推薦入学12名
	言 語 文 化 学 科	80	57	15	推薦入学 8名
	人 間 社 会 学 科	40	30	5	推薦入学 5名
	芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科	27			
	「舞踊教育学コース」		12	—	推薦入学 3名
	「音楽表現コース」		5	4	推薦入学 3名
	計	202	136	35	推薦入学31名
理 学 部	数 学 科	20	13	3	推薦入学 4名 帰国子女特別選抜 若干名
	物 理 学 科	20	14	3	推薦入学 3名 帰国子女特別選抜 若干名
	化 学 科	20	14	3	推薦入学 3名 帰国子女特別選抜 若干名
	生 物 学 科	25	17	4	推薦入学 4名 帰国子女特別選抜 若干名
	情 報 科 学 科	40	23	7	推薦入学10名 帰国子女特別選抜 若干名
		計	125	81	20
生 活 科 学 部	生 活 環 境 学 科	60	42	9	推薦入学 9名
	人 間 生 活 学 科	65	43	10	推薦入学12名
	計	125	85	19	推薦入学21名
	合 計	452	302	74	推薦入学76名 帰国子女特別選抜 若干名

[注] 1 文教育学部芸術・表現行動学科「舞踊教育学コース」では、前期日程のみの募集で、後期日程の募集は行わない。

2 理学部の帰国子女・外国学校出身者特別選抜の募集人員若干名は、前期日程に含む。

2. 出願資格

下記のいずれかに該当する女子で、かつ、平成14年度大学入試センター試験の本学が指定した教科・科目を受験した者

- (1) 高等学校（中等教育学校を含む。）を卒業した者及び平成14年3月卒業見込みの者
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者及び平成14年3月修了見込みの者
- (3) 学校教育法施行規則第69条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者及び平成14年3月31日までにこれに該当する見込みの者

平成14年度大学入学者選抜大学入試センター試験受験案内の「2 出願資格と出願資格を証明する書類」の項を参照のこと

3. 出願期間

平成14年1月28日（月）から平成14年2月6日（水）まで

4. 出願について

- (1) 他の国公立大学との併願について
【前期日程】と【後期日程】において、2つの国公立大学に出願する場合は、「前期-前期」、「後期-後期」の組み合わせで併願することはできない。
- (2) 本学の併願について
本学の【前期日程】に出願する者が、本学の【後期日程】を併願してもよい。
なお、【前期日程】と【後期日程】で志望する学部・学科が異なっても差し支えないが、【前期日程】、【後期日程】のいずれも1つの学部・学科に限る。
- (3) 本学又は他の国公立大学（「私立産業医科大学」を含む。以下同じ）の「前期日程試験」に合格し、入学手続きを行った者は、「後期日程試験」を受験してもその合格者とはならない。
- (4) 本学又は他の国公立大学の推薦入学の合格者は、本学の個別学力検査等（第2次試験）を受験してもその合格者とはならない。
ただし、当該大学の推薦入学の辞退を許可された者は除く。

5. 入学者選抜方法

- (1) 入学者の選抜
入学者の選抜は、本学が課す大学入試センター試験、個別学力検査、面接、小論文、実技検査、調査書及び健康診断書の結果を総合して判定する。
- (2) 2段階選抜
入学志願者の数が、募集人員を大幅に上回り、本学の個別学力検査等を適切に実施できない場合は、大学入試センター試験の成績と調査書の内容により、第1段階選抜を行い、その合格者に対して本学の個別学力検査等を行う。

(第1段階の選抜方法)

本学が定める「大学入試センター試験で受験を要する教科等」の各教科・科目の得点（本学が定める配点13～14ページ）を主とし、【前期日程】では募集人員の約6倍、【後期日程】では募集人員の約10倍を、第1段階選抜の合格者とする。

(実施しない学部・学科)	理 学 部	物理学科	【後期日程】
	〃	化学科	〃
	〃	生物学科	〃
	〃	情報科学科	〃

6. 大学入試センター試験で受験を要する教科等

【文教育学部】

学 科 名 等	選抜方法 の 区 分	大学入試センター試験で入学志願者に 解 答 さ せ る 教 科 ・ 科 目 名	受 験 を 要 す る 教 科 数
人 文 科 学 科	前期日程	国 (国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴 (世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 数 (数Ⅰ・数A) と (数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理 (物B、化B、生B、地学Bから1) 外 (英、独、仏、中、韓から1)	5教科
	後期日程	国 (国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴 (世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 理 (物B、化B、生B、地学B) } から3 数 (数Ⅰ・数A) と (数Ⅱ・数B、工*、簿*、 情報*から1) 外 (英、独、仏、中から1)	3教科
言 語 文 化 学 科	前期日程	国 (国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴 (世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 数 (数Ⅰ・数A) と (数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理 (物B、化B、生B、地学Bから1) 外 (英、独、仏、中、韓から1)	5教科
	後期日程	国 (国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴 (世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 数 (数Ⅰ・数A) と (数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理 (物B、化B、生B、地学Bから1) 外 (英、独、仏、中から1)	5教科
人 間 社 会 科 学 科	前期日程	国 (国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴 (世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 数 (数Ⅰ・数A) と (数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理 (物B、化B、生B、地学Bから1) 外 (英、独、仏、中、韓から1)	5教科
	後期日程	国 (国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴 (世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 理 (物B、化B、生B、地学B) } から1 数 (数Ⅰ・数A) と (数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 外 (英、独、仏、中から1)	4教科
芸 術 ・ 表 現 行 動 学 科 「舞踊教育学コース」 「音楽表現コース」	前期日程	国 (国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴 (世B、日B、地理A、地理B) } から1 公民 数 (数Ⅰ・数A) と (数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理 (物B、化B、生B、地学Bから1) 外 (英、独、仏、中、韓から1)	5教科
	後期日程	国 (国Ⅰ・国Ⅱ) 数 (数Ⅰ・数A) と (数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 外 (英、独、仏、中から1)	3教科

【注】 舞踊教育学コースは、前期のみ。

【理学部・生活科学部】

学科名等	選抜方法の区分	大学入試センター試験で入学志願者に解答させる教科・科目名	受験を要する教科数
理学部 数学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	4教科
	後期日程		
物理学科	前期日程		
	後期日程		
化学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、生Bから1)と(化B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	4教科
	後期日程		
生物学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	4教科
	後期日程		
情報科学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	4教科
	後期日程		
生活科学部 生活環境学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴 } から1 公民 } 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、生Bから1)と(化B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	5教科
	後期日程		
人間生活学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ) 地歴 } から1 公民 } 数(数Ⅰ・数A)と(数Ⅱ・数B、工*、簿*、情報*から1) 理(物B、化B、生B、地学Bから1) 外(英、独、仏から1)	5教科
	後期日程		

* 大学入試センター試験の「工業数理」、「簿記」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校においてこれらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限る。

- [注] 1 3学部とも大学入試センター試験で、指定した教科・科目の範囲内で2科目以上受験している場合は、高得点の教科・科目の成績を用いる。文教育学部「人文科学科」後期日程は[注2]を参照。
2 「人文科学科」後期日程の大学入試センター試験では、「国語」、「地理歴史、公民、理科から1」、「数学」、「外国語」から3教科・科目を受験するものとするが、指定した教科・科目の範囲内で4教科・科目以上受験した場合は、高得点の順に3教科・科目の成績を用いる。なお、「地理歴史、公民、理科から1」で2教科・科目以上受験した場合も、高得点の教科・科目の成績を用いる。

7. 本学の入学試験

(1) 個別学力検査期日

【前期日程】

文教育学部 平成14年2月25日(月) 実技検査は2月26日(火)に実施
 理学部 平成14年2月25日(月)
 生活科学部 平成14年2月25日(月)

【後期日程】

文教育学部 平成14年3月12日(火) 実技検査は3月12日(火)に実施
 理学部 平成14年3月12日(火)
 生活科学部 平成14年3月12日(火)

(2) 個別学力検査教科・科目

【文教育学部】

学科名等	選抜方法 の区分	個別学力検査等 の教科・科目等	備考
人文科学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ・古Ⅰ・古Ⅱ) 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) } から1 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏、中から1)	数A* (数と式、数列)
	後期日程	小論文	
言語文化学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ・古Ⅰ・古Ⅱ) 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏、中から1)	数B* (ベクトル、複素数 と複素数平面)
	後期日程	小論文	
人間社会科学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ・古Ⅰ・古Ⅱ) 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏、中から1)	
	後期日程	小論文、面接	
芸術・表現行動学科 「舞踊教育学コース」 「音楽表現コース」	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ・古Ⅰ・古Ⅱ) 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) } から1 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏、中から1) 実技検査	「舞踊教育学コース」は、 後期日程の募集は行わな い。
	後期日程	「音楽表現コース」 実技検査	

【理学部・生活科学部】

学科名等	選抜方法 の区分	個別学力検査等 の教科・科目等	備考
理学部 数学科	前期日程	数学共通(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 数学専門(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*) 理(物B・物Ⅱ、化B・化Ⅱ、生B・生Ⅱから1)	数A* (数と式、数列)
	後期日程	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*)	
物理学科	前期日程	数学共通(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 数、理(物B・物Ⅱ)と(数Ⅲ・数C*、化B・化Ⅱ、 生B・生Ⅱから1)	数B* (ベクトル、複素数 と複素数平面)
	後期日程	個別学力検査は課さない。	
化学科	前期日程	数学共通(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 理(化B・化Ⅱ)と(物B・物Ⅱ、生B・生Ⅱ から1)	数C* (行列と線形計算、 いろいろな曲線)
	後期日程	個別学力検査は課さない。	
生物学科	前期日程	数学共通(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 理(生B・生Ⅱ)と(物B・物Ⅱ、化B・化Ⅱ から1)	
	後期日程	個別学力検査は課さない。	
情報科学科	前期日程	数学共通(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 数学専門(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*) 数、理(数Ⅲ・数C*、物B・物Ⅱ、化B・化Ⅱ、生 B・生Ⅱから2)	
	後期日程	個別学力検査は課さない。	
生活科学部 生活環境学科	前期日程	数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏から1)	数A* (数と式、数列)
	後期日程	面接	
人間生活学科	前期日程	国(国Ⅰ・国Ⅱ・古Ⅰ・古Ⅱ) 数(数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) } から1 外(英Ⅰ・英Ⅱ・リーディング、独、仏から1)	数B* (ベクトル、複素数 と複素数平面)
	後期日程	面接	

(3) 試験教科・科目別配点

【前期日程】

【文教育学部】

試験区分		大学入試センター試験					本学の試験					合計	
教科・科目等		国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国 語	計	国語	数学	外国 語	実 技		計
学科名													
人文学科		100	50	100	50	100	400	(200)	(200)	200	—	400	800
言語文化学科		100	50	100	50	100	400	200	—	200	—	400	800
人間社会科学科		100	50	100	50	100	400	* 400		—	—	400	800
芸術・表現行動 学科	舞踊	100	50	100	50	100	400	(100)	(100)	100	200	400	800
	音楽	100	50	100	50	100	400	(200)	(200)	200	※	400	800

* 人間社会科学科の本学の試験の配点400点は、国語200点、数学200点、外国語200点の合計点の3分の2とする。

※ 「音楽表現コース」の実技については、総合判定の資料とする。

[注] 人文学科、芸術・表現行動学科は、()から1科目選択

【理学部】

試験区分		大学入試センター試験					本学の試験						合計		
教科・科目等		国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国 語	計	数 学			理 科			計	
学科名								*数学 共通	*数学 専門	*数学	物理	化学			生物
数 学 科		50	—	50	50	100	250	100	200	—	(100)	(100)	(100)	400	650
物 理 学 科		50	—	50	50	100	250	100	—	(100)	200	(100)	(100)	400	650
化 学 科		50	—	50	50	100	250	100	—	—	(100)	200	(100)	400	650
生 物 学 科		50	—	50	50	100	250	100	—	—	(100)	(100)	200	400	650
情 報 科 学 科		50	—	50	50	100	250	100	100	(100)	(100)	(100)	(100)	400	650

[注] 数学科、物理学科、化学科、生物学科は、()から1科目選択、情報科学科は、()から2科目選択

* 数学共通 [数Ⅰ・数A(数と式、数列)、数Ⅱ・数B(ベクトル、複素数と複素数平面)]

* 数学専門 [数学共通、数Ⅲ・数C(行列と線形計算、いろいろな曲線)]

* 数学 [数Ⅲ・数C(行列と線形計算、いろいろな曲線)]

【生活科学部】

試験区分		大学入試センター試験					本学の試験				合計	
教科・科目等		国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国 語	計	国語	数学	外国 語		計
学科名												
生活環境学科		100	50	100	150	100	500	—	250	250	500	1000
人間生活学科		150	100	100	50	100	500	(250)	(250)	250	500	1000

[注] 1 大学入試センター試験の数学は2科目の合計点とする。

2 生活環境学科の大学入試センター試験の理科は2科目の合計点とする。

3 人間生活学科は、()から1科目選択

【後期日程】

【文教育学部】

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験						本学の試験				合計
	国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国 語	計	小 論文	面 接	実 技	計	
人文科学科	(50)	*(50)	(50)	*(50)	(50)	150	100	—	—	100	250
言語文化学科	100	50	100	50	100	400	200	—	—	200	600
人間社会科学科	100	(100)	100	(100)	100	400	100	—	—	100	500
芸術・表現行動学科	100	—	100	—	200	400	—	—	※	—	400

- 【注】 1 人文科学科は、()の「国語」、*「地理歴史、公民、理科から1」、「数学」、「外国語」から3教科・科目を選択。指定した教科・科目の範囲内で4教科・科目以上受験した場合は、高得点の順に3教科・科目の成績を用いる。
人文科学科の小論文は、英語文の短い論文をもとに日本語で論述する。なお、英和辞典（電子式を除く）の持ち込みを認める。
2 人間社会科学科は、()から1科目選択
3 人間社会科学科の面接については、主として、小論文の解答をもとに行う。小論文及び面接の成績は、これらを総合した合計点とする。
4 芸術・表現行動学科の「音楽表現コース」の※実技については、総合判定の資料とする。
5 芸術・表現行動学科の「舞踊教育学コース」は、前期のみで後期の募集は行わない。

【理 学 部】

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験						本学の試験		合計
	国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国 語	計	数学	計	
数 学 科	※	—	※	※	100	100	300	300	400
物 理 学 科	50	—	200	200	100	550	—	—	550
化 学 科	100	—	100	200	100	500	—	—	500
生 物 学 科	100	—	100	200	100	500	—	—	500
情 報 科 学 科	100	—	200	100	200	600	—	—	600

- ※ 数学科では、大学入試センター試験の受験を要する教科として国語、数学、理科及び外国語の4教科を課しているが、可否の判定には、外国語のみを用いる。
ただし、第1段階選抜を実施する場合は、大学入試センター試験の国語（50点）、数学（50点）、理科（50点）、外国語（100点）の配点とする。

【生活科学部】

試験区分 教科・科目等 学科名	大学入試センター試験						本学の試験
	国語	地理 歴史 公民	数学	理科	外国 語	計	面 接
生活環境学科	—	—	200	200	200	600	※
人間生活学科	200	—	200	—	200	600	※

※ 面接は、ABC評価により可否判定の資料とする。

【注】 1 大学入試センター試験の数学は2科目の合計点とする。

2 生活環境学科の大学入試センター試験の理科は2科目の合計点とする。

(全学部共通事項) 大学入試センター試験で、指定した教科・科目の範囲内で2科目以上受験している場合は、高得点の教科・科目の成績を用いる。

(4) 実技検査

○芸術・表現行動学科「舞踊教育学コース」志望者に次の検査を行う。

1 必須課題

- ア. 舞踊・スポーツに必要な身体支配能力をみるための基礎運動
- イ. 面接

2 選択課題

下記のア、イのいずれかを選択すること。

ア. 舞踊（下記の①と②を行う。）

- ① 既成作品：モダンダンス、バレエ、日本舞踊、民族舞踊や、マイム、新体操などの表現領域から作品を自由に選択し、1分以内に演じる。自作・他作どちらでも可。
使用する音楽（カセットテープに録音のこと）を持参のこと。
- ② 創作：課題は当日提示する。

イ. スポーツ（下記の①から③の全種目を行う。）

- ① バレーボール
- ② バスケットボール
- ③ テニス（硬式）

※ 実技検査に必要な服装、用具、靴（体育館シューズ及び各自選択課題に必要な靴）を持参のこと。

○芸術・表現行動学科「音楽表現コース」志望者に次の検査を行う。

1 必須課題

- ア. 聴音 : 1～4声部
- イ. 新曲視唱 : 旋律のみ
- ウ. 歌唱 : イタリア古典歌曲（原語）より1曲自由選択し、暗譜で演奏すること。
なお、歌唱は伴奏用楽譜を必要とするので、受験者は必ず楽譜に氏名を明記して出願書類と一緒に送ること。（返却しない）
- エ. ピアノ : J. S. バッハ作曲の鍵盤音楽（3分以内）より1曲を自由選択し、暗譜で演奏すること。

2 選択課題

次のア、イ、ウのいずれか一つを選択すること。

ア. 声楽演奏

下記のいずれかを選択し、暗譜で演奏すること。

- ① 日本歌曲
- ② アリア（原語・原調）又は外国歌曲（原語）
なお、声楽演奏は伴奏用楽譜を必要とするので、受験者は必ず楽譜に氏名を明記して出願書類と一緒に送ること。（返却しない）

イ. ピアノ演奏

下記のいずれかを選択し、暗譜で演奏すること。

- ① ベートーヴェンのピアノソナタから一つの楽章を自由選択（ただし、緩徐楽章を除く）
- ② ショパンのピアノ練習曲集（作品10、作品25）から2曲を自由選択

ウ. 声又は任意の楽器による演奏

音楽様式は問わない（邦楽器、洋楽器など）。
演奏に関する質疑応答を行う。楽譜使用可。演奏は受験者本人のみに限る。

〔注〕推薦入学及び私費外国人留学生特別選抜の実技検査については、
「1 必須課題」のアを、次のとおり変更して実施し、他の検査は同様とする。

ア 聴音 : 1～2声部

8. 身体に障害のある入学志願者の出願

本学に入学を志望する者のうち、身体に障害があり、受験上特別な措置を希望する者については、事前相談を行うので、出願する前のできるだけ早い時期に本学入試課に申し出て（電話可）、「受験特別措置事前相談申請書」を受領のうえ、原則として平成14年1月18日（金）までに必要書類（医師の診断書等）を添えて提出すること。

なお、点字又は代筆による解答を希望する者については、平成13年12月14日（金）までに申し出ること。

9. 学生募集要項（願書）・大学案内の請求

一般入学者選抜（前期日程・後期日程）に関する「平成14年度学生募集要項」（出願関係書類添付）の配付は、平成13年11月上旬から行うので、郵便事情を考慮して早めに請求すること。

また、大学案内・学生募集要項は次のとおり請求すること。

(1) 郵便局で請求する場合（10月より案内開始）

郵便局（普通局、特定局）に設置されている「全国 国公立大学・短期大学、私立大学・短期大学 募集要項（願書）請求申込書」（入学願書ゆうパックカタログ）に必要な事項を記入の上、郵送料と払込手数料70円を添えて、最寄の郵便局の窓口で申し込んで下さい。受付から1週間程度で送付されます。

なお、請求申込書は高等学校で入手できる場合もあります。

*請求は、出願締め切りの約10日前までの取り扱いとなりますので注意してください。

(2) テレメールで請求する場合

①最寄の地区に電話してください。

東 京	03-3222-0102
名 古 屋	052-222-0203
大 阪	06-6222-0102
福 岡	092-433-0102

②お茶の水女子大学資料番号（6桁）をダイヤルしてください。

大 学 案 内	562352
募集要項（願書）	582352
大学案内+募集要項（願書）	542352

③あとは音声ガイダンスに従って登録してください。

*住所、名前の登録時には、ゆっくりはっきりと自分の声で吹き込んでください。登録された音声の不鮮明な場合は到着まで時間がかかる場合があります。

*一度ご利用になられた暗証番号（4桁）は必ずひかえておいてください。郵送料をお支払いいただく際に必要になります。また、テレメールを繰り返してご利用いただく時にも便利です。

*郵送料は、お届けした資料に同封されている支払い方法に従いお支払いください。

*請求は、出願締め切りの約10日前までの取り扱いとなりますので注意してください。

(3) 大学のホームページから請求する場合

大学のホームページから直接資料請求が出来ます。
詳しくは、入試課ホームページをごらんください。

<http://www.ao.ocha.ac.jp/>

上記 (1), (2), (3) の 請求方法についてのお問合せ先

全国学校案内資料管理事務センター
電話 06-6231-5992

(4) 大学に直接請求する場合

請求する場合は、返信用の封筒（角型2号 23.9×33.1cm）に宛名を明記し、下に示す返信用切手を貼付したものを同封の上、請求してください。
請求する封筒の表に「学生募集要項請求」または「大学案内請求」と朱書きして請求すること。

この学生募集要項及び大学案内は全学部の内容を掲載しており、各学部共通である。

- | | |
|---------------|-------------------|
| ① 学生募集要項のみ | 270円分の切手を返信用封筒に貼付 |
| ② 大学案内のみ | 390円分の切手を返信用封筒に貼付 |
| ③ 学生募集要項と大学案内 | 580円分の切手を返信用封筒に貼付 |

〔請求先〕 〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学 入試課

10. 入学者選抜等に関する照会先

〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号
お茶の水女子大学 入試課

月曜日～金曜日（祝日は除く） 9時～17時

電話 03-5978-5151～2

※ 照会はできるだけ志願者本人が行ってください。

○テレホンサービス 03-3946-5109 実施期間：平成14年1月30日から

出願の状況（一般選抜）、第1段階選抜の有無、追加合格の実施の有無をお知らせします。

11. お茶の水女子大学入試課ホームページ

インターネットを利用して、入試情報を知ることが出来ます。
入試課のホームページURLはつぎのとおりです。

<http://www.ao.ocha.ac.jp/>

推 薦 入 学

1. 募集人員・出願要件

学部名	文 教 育 学 部	
募集人員	人 文 学 科	12 名
	言 語 文 化 学 科	8 名
	人 間 社 会 学 科	5 名
	芸術・表現行動学科 「舞踊教育学コース」 「音楽表現コース」	3 名 3 名
出願資格 及び 推薦要件	平成13年度中に高等学校（中等教育学校を含む。）を卒業又は卒業見込みの女子で高等学校長が、以下の要件に該当すると認め、責任をもって推薦できる者。	
	人 文 学 科	次の①又は②のいずれかに該当する者 ①調査書の学習成績概評がAの者 ②人文科学科で学ぶことのできる専門領域について、特に優れた能力と強い関心を有する者
	言 語 文 化 学 科	次の①又は②のいずれかに該当する者 ①調査書の学習成績概評がAの者 ②日本文学、日本語学において特に優れた能力と意欲を有する者
	人 間 社 会 学 科	次の①と②の双方に該当する者 ①調査書の学習成績概評がA以上の者 ②教育科学（人間社会科学科のアドミッション・ポリシーを参照）の勉学に強い意欲を有するもの
	芸術・表現行動学科	次の①又は②のいずれかに該当する者 ①調査書の学習成績概評がAの者 ②「舞踊教育学コース」 舞踊又は体育において特に優れた能力と意欲を有する者 「音楽表現コース」 音楽において特に優れた能力と意欲を有する者
選考方法	出願書類の審査により第1次選考を行い、選考結果は平成13年11月21日（水）までに本人に通知する。	
	人 文 学 科 言 語 文 化 学 科 人 間 社 会 学 科	第2次選考は、第1次選考合格者について小論文と面接（口頭試問を含む。）を課し総合的に判定する。なお、第2次選考は平成13年11月29日（木）・30日（金）に行い、選考の結果は12月6日（木）に学内掲示し、かつ本人宛に郵送（速達）により通知する。
	芸術・表現行動学科	第2次選考は、第1次選考合格者について小論文と面接（口頭試問を含む。）及び実技検査を課し、本学の必修科目を受講するのに必要な能力を基準として、総合的に判定する。なお、第2次選考は平成13年11月29日（木）・30日（金）に行い、選考の結果は12月6日（木）に学内掲示し、かつ本人宛に郵送（速達）により通知する。
出願時期	平成13年10月29日（月）～11月2日（金）	
推薦入学 募集要項 請求方法	9月上旬から配布する。郵送で請求する場合は、390円切手を貼った返信用の封筒（角型2号 23.9×33.1cm）に宛名を明記したものを同封し、封筒の表に「推薦入学募集要項請求」と朱書きして、入試課へ請求すること。大学案内も請求する場合は、返信用封筒に580円切手を貼付し、「推薦入学募集要項・大学案内請求」と朱書きすること。	
請 求 先	〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号 お茶の水女子大学 入試課	

〔注〕 1 推薦を行う者については、高等学校長のほか高等専門学校長及び高等部を置く盲・聾・養護学校長並びに文部科学大臣から高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定された在外教育施設の長を含む。

2 芸術・表現行動学科の実技検査については、一般選抜の実技検査を参照のこと。

学部名	理 学 部	生活科学部
募集人員	数 学 科 4名 物 理 学 科 3名 化 学 科 3名 生 物 学 科 4名 情 報 科 学 科 10名	生活環境学科 9名 人間生活学科 12名
出願資格 及び推薦 の要件	平成13年度中に高等学校（中等教育学校を含む。）を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者 ① 調査書の学習成績概評が㉠の者 ② 志望学科に関連する科目において特に優れた能力と意欲を有する者	平成13年度中に高等学校（中等教育学校を含む。）を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者 ① 調査書の学習成績概評が㉠の者 ② 志望学科における各専門領域の勉学に強い意欲を有する者
選考方法	出願書類の審査により第1次選考を行い、選考結果は平成13年11月21日（水）までに本人に通知する。第2次選考は、第1次選考合格者について小論文（生物学科のみ）と面接（口頭試問を含む。）を課し総合的に判定する。 なお、第2次選考は平成13年11月29日（木）に行い、選考の結果は12月6日（木）に学内掲示し、かつ本人宛に郵送（速達）により通知する。	出願書類の審査により第1次選考を行い、選考結果は平成13年11月21日（水）までに本人に通知する。第2次選考は、第1次選考合格者について面接（口頭試問を含む。）を課し総合的に判定する。なお、第2次選考は平成13年11月29日（木）に行い、選考の結果は12月6日（木）に学内掲示し、かつ本人宛に郵送（速達）により通知する。
出願時期	平成13年10月29日（月）～11月2日（金）	
推薦入学 募集要項 請求方法	9月上旬から配布する。郵送で請求する場合は、390円切手を貼った返信用の封筒（角型2号 23.9×33.1cm）に宛名を明記したものを同封し、封筒の表に「推薦入学募集要項請求」と朱書して、入試課へ請求すること。大学案内も請求する場合は、返信用封筒に580円切手を貼付し、「推薦入学募集要項・大学案内請求」と朱書きすること。	
請 求 先	〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号 お茶の水女子大学 入試課	

[注] 推薦を行う者については、高等学校長のほか高等専門学校長及び高等部を置く盲・聾・養護学校長並びに文部科学大臣から高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定された在外教育施設の長を含む。

帰国子女・外国学校出身者特別選抜

1. 募集人員・出願要件

学 部 名	理 学 部 (全 学 科)
募 集 人 員	入学定員のうち若干名
出 願 資 格	<p>日本国籍を有する女子で、次の基礎資格を有し、かつ要件を満たしている者。</p> <p>1. 基礎資格 次のいずれかに該当する女子。 ア 平成13年度末までに高等学校（中等教育学校を含む。）を卒業又は卒業見込みの者で、外国において2年以上（2学年相当修了も含む。）継続して外国の正規の学校教育を受けた者 イ 外国において、学校教育における12年の課程のうち最終学年を含め2年以上（2学年相当修了も含む）継続して教育を受け、卒業又は卒業見込みの者 ウ スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成14年3月31日までに満18歳に達する者 エ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成14年3月31日までに満18歳に達する者 オ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成14年3月31日までに満18歳に達する者</p> <p>(注) 外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校（文部科学大臣から高等学校の課程と同等の課程を有していると認定された在外教育施設）に在学した期間については、外国において学校教育を受けたものとはみなさない。</p> <p>2. 要件 帰国してから出願までの期間は、外国での正規の学校在学期間を超えないこと。</p>
選 考 方 法	<p>入学者の選抜は、第1次選考、第2次選考に分けて行う。</p> <p>① 第1次選考：出願書類を資料として行い、選考結果は平成13年11月21日（水）までに本人に通知する。</p> <p>② 第2次選考：第1次選考合格者に対し、次の試験等を行う。</p> <p>数 学 科： } 情報科学科： } — 数学、日本語による小論文及び口述試験を行う。</p> <p>(注) 数学の内容は、数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A（数と式、数列）、数学B（ベクトル、複素数と複素数平面）、数学C（行列と線形計算、いろいろな曲線）</p> <p>物理学科：口述試験を行う。 化学科：口述試験を行う。 生物学科：小論文及び口述試験を行う。</p> <p>なお、第2次選考は平成13年11月29日（木）に行い、選考の結果は平成13年12月6日（木）に学内掲示し、かつ本人宛に郵送（速達）により通知する。</p>
出 願 時 期	平成13年10月22日（月）～11月2日（金）
帰国子女・外国学校出身者特別選抜募集要項請求方法	<p>9月上旬から配付する。郵送を希望する者は、390円切手を貼った返信用の封筒（角型2号23.9×33.1cm）に宛名（日本国内の連絡先に限る）を明記したものを同封し、封筒の表に「帰国子女募集要項請求」と朱書きして、下記へ請求すること。大学案内も請求する場合は、返信用封筒に580円切手を貼付し、「帰国子女募集要項・大学案内請求」と朱書きすること。</p>
請 求 先	〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号 お茶の水女子大学 入試課

私費外国人留学生（学部留学生）特別選抜

1. 募集人員・出願要件

実施学部・学科	<p>文教育学部：人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科</p> <p>理 学 部：数学科、物理学科、化学科、生物学科、情報科学科</p> <p>生活科学部：生活環境学科、人間生活学科</p>
募 集 人 員	各 学 科 と も 若 干 名
出 願 資 格	<p>次の(1)及び(2)の両方に該当する日本国籍を有しない女子で、出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」又は「留学」に変更できる在留資格を有する者及び取得できる見込みの者。</p> <p>(1) 次の①、②、③、④のいずれかに該当する者。</p> <p>① 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び平成14年(2002年)3月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。</p> <p>② スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、平成14年(2002年)3月31日までに満18歳に達する者。</p> <p>③ ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、平成14年(2002年)3月31日までに満18歳に達する者。</p> <p>④ フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、平成14年(2002年)3月31日までに満18歳に達する者。</p> <p>(2) 日本国際教育協会主催の「平成14年度私費外国人留学生統一試験」及び「平成13年度日本語能力試験(1級)」を受験した者。</p> <p>なお、日本において高等学校を卒業又は同等以上の資格を得た者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。</p>
選 抜 方 法	<p>志願者全員に本学の入学試験を課し、その結果と日本語能力試験(1級)成績、私費外国人留学生統一試験、最終出身校の成績証明書、健康診断書等により、総合して合格者を判定する。</p>
選 抜 期 日	平成14年2月25日(月)、26日(火)
出 願 期 間	平成13年12月10日(月)～12月17日(月)
私費外国人留学生特別選抜募集要項請求方法	<p>11月上旬から配付する。郵送を希望する者は、390円切手を貼った返信用の封筒(角型2号 23.9×33.1cm)に宛名(日本国内の連絡先に限る)を明記したものを同封し、封筒の表に「私費外国人留学生募集要項請求」と朱書きして下記へ請求すること。大学案内も請求する場合は、返信用の封筒に580円切手を貼付し、「私費外国人留学生募集要項・大学案内請求」と朱書きすること。</p>
請 求 先	〒112-8610 東京都文京区大塚2丁目1番1号 お茶の水女子大学 入試課

2. 私費外国人留学生統一試験で受験を要する科目等

学 部	学 科	受 験 を 要 す る 科 目	受 験 を 要 す る 科 目 数
文教育学部	言語文化学科	文科系	全科目
	人文科学科 人間社会科学科 芸術・表現行動学科	文科系又は理科系のいずれかを選択	全科目
理学部	全 学 科	理科系	全科目
生活科学部	生活環境学科	理科系	全科目
	人間生活学科	文科系又は理科系のいずれかを選択	全科目

3. 本学の入学試験

- (1) 試験期日の詳細については、本学私費外国人留学生（学部留学生）特別選抜学生募集要項に明示する。
- (2) 学力検査教科・科目

志願する学部・学科		学 力 検 査 科 目
文 教 育 学 部	人文科学科	日本語 外国語（英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択）
	言語文化学科	日本語 外国語（英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択）
	人間社会科学科	日本語 外国語（英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択）
	芸術・表現 行動学科	日本語 外国語（英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択） ※ 上記学力検査のほか、実技検査を行う。

志願する学部・学科		学 力 検 査 科 目
理	数 学 科	数学共通 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 数 学 (数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	物 理 学 科	数学共通 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 理科・数学 (「物理」と「数Ⅲ・数C*、化学、生物から1科目選択」) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
学 部	化 学 科	数学共通 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 理 科 (「化学」と「物理、生物から1科目選択」) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	生 物 学 科	数学共通 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 理 科 (「生物」と「物理、化学から1科目選択」) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	情 報 科 学 科	数学共通 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 数 学 (数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A*・数B*・数C*) 数学・理科 (数Ⅲ・数C*、物理、化学、生物から2科目選択) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
生 活 科 学 部	生 活 環 境 学 科	数 学 (数Ⅰ・数Ⅱ・数A*・数B*) 日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)
	人 間 生 活 学 科	日本語 外国語 (英語Ⅰ・Ⅱ・リーディング、ドイツ語、フランス語から1か国語選択)

数A* (数と式、数列)
数B* (ベクトル、複素数と複素数平面)
数C* (行列と線形計算、いろいろな曲線)

(注) 学力検査科目欄の外国語 (英語、ドイツ語、フランス語) は、母国語を選択することはできない。

(3) 実技検査 (芸術・表現行動学科のみ)

一般選抜の実技検査を参照のこと。

(4) 口述試験

各学部とも口述試験を行う。

諸 報

○学内研修

『事務職員特別研修』

去る4月より、「平成13年度事務職員特別研修」が行われ、各研修生が選択した科目の単位認定試験をもって終了しました。

本研修は、放送大学の開設授業科目を利用した研修で、「職員として必要な知識を修得させ、その資質の向上を図ること」を目的とし、平成4年度、平成5年度、平成8年度、平成9年度、平成10年度（第1回、第2回）、平成11年度（第1回、第2回）及び平成12年度（第1回、第2回）に引き続きまして、今年度の研修は、第11回目となりました。

今回は、10名がこの研修に参加し、放送大学開設の授業科目から各研修生が自ら選択した科目を受講しました。なお、研修生が選択した授業科目は、次のとおりです。

経済学('00)	管理会計('99)	マーケティング論('99)
産業と労使の関係('99)		

○第3回お茶の水女子大学運営諮問会議を開催

第3回運営諮問会議が平成13年7月6日(金)、委員7名の出席を得て大学院人間文化研究科棟大会議室にて開催された。

議題は下記のとおりであるが、とりわけ、第1回からの継続審議事項である「国立女子大学の存在意義の明確化」に関連して現在とりまとめ中である『卒業生のライフコースに関する調査』(議題1)について、担当した大学院人間文化研究科天野正子教授から結果が報告され、出席者には大きな関心をもって受け止められた。得られたデータを今後の将来構想にどのように反映していくかなどについて、委員から活発な質疑・提言が出された。

そして、メインテーマとして、去る6月に文部科学省から示された「国立大学の構造改革の方針」(議題3)について、国立大学の再編・統合問題を視野に入れ今後本学がとるべき路線の選択について、委員・大学側双方から意見交換がなされ、委員からは幅広い見解・助言が示された。

また、その他の議題に関しても、一つひとつについて具体的な提言や要望が示された。

最後に本田学長が「現在の再編・統合という荒波を乗り越えることができるよう、意見を参考にしながら、小さい大学である本学の独自性を特化するようなプログラムを前向きに検討してみたい」とさらなる改革に取り組む意欲をあらわし、3時間半に及んだ会議を閉会した。

第3回運営諮問会議議題

1. 卒業生追跡調査
2. 重点教育・研究
3. 当面の諸問題「大学の構造改革」について
4. 本学の現状と動き



各議題について意見を交わす委員



聞き入る大学側関係者たち

○人事院勧告について

人事院は平成13年8月8日、国会及び内閣に対し、国家公務員法、一般職の職員の給与に関する法律等の規定に基づき、一般職の職員の給与等について、報告及び勧告をしました。

勧告等についての骨子は別紙のとおりです。

給与勧告の骨子

○ 本年の給与勧告のポイント

- ① 期末・勤勉手当（ボーナス）の引下げ（△0.05月分）
- ② 俸給表の改定を行わず、官民給与の較差に見合った年額相当額を暫定的な一時金（3,756円）として支給
～ 平均年間給与、3年連続の減少（△1.6万円（△0.2%））

引き続き厳しい諸情勢の下にある民間企業の給与抑制措置・雇用調整等の実施状況について幅広く調査・把握するとともに、有識者、企業経営者等の意見を広く聴取し、公務員の給与改定について検討

1 給与勧告の基本的考え方

- 〈給与勧告の意義〉 労働基本権制約の代償措置、労使関係の安定等能率的公務運営の基盤
- 〈民間準拠方式〉 市場原理による決定が困難、社会一般の情勢に適応した処遇の確保
雇用情勢も反映している民間給与に均衡させるのが最も合理的

2 官民給与の比較

〔約7,500民間事業所の約44万人の個人別給与を実地調査（完了率94%）〕

- 〈月例給〉 官民の4月分給与を調査（ベア中止、賃金カット等を実施した企業の状況も反映）
単純な平均値ではなく、職種、役職段階、年齢など給与決定要素の同じ者同士を比較
- 〈ボーナス〉 過去1年間の民間の支給実績（支給月数）と公務の年間支給月数を比較

○ 官民較差（月例給） 313円 0.08%〔行政職(一)・(二)現行給与 379,836円 平均年齢 40.7歳〕

3 改定の考え方

- ・ 官民給与の精確な比較による適正な公務員給与水準の維持の要請（昨年国会附帯決議）
- ・ 民間の改定状況
～ 約半数（52.3%）の事業所で、雇用調整等を行いつつ、低率であってもベア実施
- ・ 四現業職員（約31万人）はベア完全実施が決定（0.07%、210円）
- ・ 行政組織の整理・合理化、定員削減（10年間で25%削減）等公務における業務効率化の努力
- ・ 連年のボーナスの引下げ

などを考慮すると、月例給について算出された較差についてはこれを埋める形で均衡を図るよう所要の改定が必要

〈俸給表、既存の手当の改定は行わず、暫定的な一時金により措置〉

- ・ 官民給与の較差が昨年よりもさらに小さく、配分にめりはりをつけた俸給表の改定は困難
- ・ 諸手当についても、民間の支給状況と均衡しており改定は不要
- ・ 官民較差を埋めるために、来年以降生じる官民給与較差と合わせて俸給表や手当の改定等の措置をとることを前提に、その年額相当額を暫定的な一時金として支給
暫定的な一時金 年額3,756円（月額313円相当）

〈ボーナスは民間の支給月数に見合うよう引下げ〉（民間給与実態調査結果：4.69月）

4 改定の内容

(1) 暫定的な一時金の支給

- ・ 当分の間、3月1日(基準日)において給与法に基づく俸給表(指定職俸給表を除く。)の適用を受ける職員に対し原則年額3,756円の一時金を支給
- ・ なお、基準日に育児休業中の者に対しても、勤務実績に応じて支給するよう措置

(2) 期末・勤勉手当等の引下げ

- ・ 年間支給月数 4.75月分 → 4.7月分 (△0.05月)

※ 12月期の期末手当で引下げ

一般職員 1.6月分 → 1.55月分 (△0.05月)

特定幹部職員 1.4月分 → 1.35月分 (△0.05月)

指定職職員(期末特別手当) 1.6月分 → 1.55月分 (△0.05月)

【実施時期】 平成13年4月1日

【公務員給与水準の在り方の検討】

各地域に勤務する公務員の給与水準について、その地域の民間給与に比べて高いのではないかとの指摘もあるところ。指摘を受けるような公務員給与の在り方については、国民の理解を得ていく必要。このため、民間給与の実態把握、公務部内の給与配分の在り方について、関係各省等の協力を得て、速やかに検討

【参考】モデル給与例

(単位：円)

			勤告後		年間給与 の減少額	3年間の給 与の減少額
			月額	年間給与		
係員	25歳	独身	188,900	3,158,000	△ 6,000	△ 94,000
	30歳	配偶者	243,600	4,053,000	△ 9,000	△109,000
係長	35歳	配偶者、子1	327,700	5,523,000	△ 13,000	△146,000
	40歳	配偶者、子2	366,900	6,178,000	△ 16,000	△160,000
地方機関課長	50歳	配偶者、子2	490,380	8,155,000	△ 21,000	△237,000
本府省課長	45歳	配偶者、子2	685,020	11,821,000	△ 35,000	△403,000
本府省局長	—	—	1,148,000	19,576,000	△ 82,000	△817,000
事務次官	—	—	1,507,520	25,707,000	△107,000	△1,073,000

公務員人事管理に関する報告の骨子

公務員に対する国民の批判や環境変化の急速化等に対応するため、厳正な規律の保持とともに、能力・実績を基礎とした人材活用や開放的な公務組織の実現が重要と認識し、今後の公務員制度改革の具体化に向けて必要な視点に言及するとともに、喫緊の課題を報告

1 今後の公務員制度改革の視点

(1) 公務員制度の基本原則

- ア 行政が特定の利益や勢力、情実に影響されずに中立公正に行われるよう、公務員制度においては、「国民全体の奉仕者」としての公務員の中立・公正性の視点が重要
 - イ 労働基本権制約の下では、人事院が労使の間に立って勤務条件について勧告をし、各般の基準を設定。このような代償機能が適正に発揮される仕組みが不可欠
- 今日的要請に対応した制度改革に当たっても、こうした公務員制度の基本原則に留意する必要

(2) 公務員制度改革の具体化に向けた協力

- ア 中立第三者機関として、これまでに培った専門的知識、ノウハウ、問題意識を生かしながら、公務員制度改革の基本設計の具体化に向けて的確に協力
- イ 国民が求める公務員人事管理システムの構築に向け、以下の視点に留意する必要
 - ・ 評価・給与制度の設計については、関係当事者との十分な意思疎通と評価の試行が必要
 - ・ 再就職規制については、国民の理解と納得が得られる仕組みとしていく必要
 - ・ 採用試験については、行政の複雑・高度化、法科大学院設置の動き等を踏まえ、抜本的な見直しが必要

(3) 環境変化の急速化等に対応した人事管理の推進

- ・ 急速化する環境変化への適応性を高めるため、能力・実績を基礎とする弾力的な人材活用、官民双方向の人的交流の促進が重要
- ・ 人事院は、各府省の主体的、機動的な人事管理に向けて、各制度の趣旨を勘案しつつ、事前関与から明確な基準設定・事後チェックの方向で適切に見直し

2 喫緊の課題

ア 倫理研修の充実

課長補佐、係長クラスを対象にした新たな倫理研修の開発等を通じ、職員の倫理観をかん養

イ 女性国家公務員の採用・登用の拡大

各府省の策定する拡大計画を通じた取組の推進。キャリア・アップのための研修を実施

ウ 職業生活と家庭生活の両立のための条件整備（別途意見の申出及び勧告）

エ 若手研究員の任期の弾力化

研究活動の活性化のため、任期付研究員制度の「若手育成型」の任期等について検討

○セクシャル・ハラスメント相談員に係わる説明会を開催

セクシャル・ハラスメント相談員としての心構え、相談者への応対等についての認識を深め、相談窓口の充実を図ることを目的として、相談員に係わる説明会を、7月24日（火）午後5時から大学院人間文化研究科棟大会議室で開催し、相談員約60名が参加した。

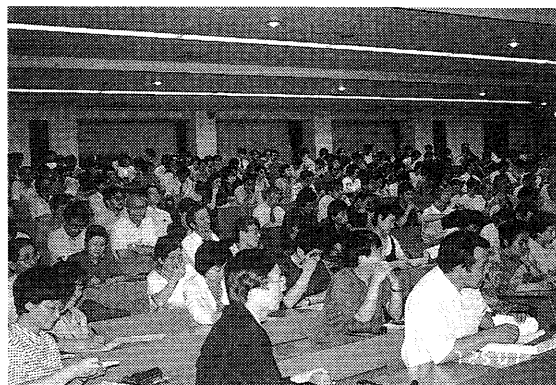
講師：丹羽 雅代 氏（東京ウィメンズプラザ）

演題：セクシャル・ハラスメント相談の基本と問題解決の実際



○「国立大学の構造改革の方針」についての全学説明会を開催

平成13年6月14日開催の国立大学長会議において、文部科学大臣が示した「国立大学の構造改革の方針」と本学の現状について、全教職員の共通理解を持つため、本田学長による全学説明会を、7月25日（水）午後4時半から共通講義棟2号館201室で開催し、約220名が参加した。



日 誌

- 7月2日(月) ジェンダー研究センター運営委員会
予算委員会
- 3日(火) 主任会議
入学試験委員会
- 4日(水) 教授会
外国人留学生懇談会
人間文化研究科前期専攻会議
- 5日(木) 理学部3年次編入学合格発表
- 6日(金) お茶の水女子大学運営諮問会議
附属図書館運営委員会
- 9日(月) 学長補佐会議
新たに発見された核燃料物質に係る
立入検査
- 10日(火) 附属学校連絡会
生活環境研究センター運営委員会
課長等連絡会議
- 11日(水) 文教育学部教務関係事項検討委員会
入学者選抜方法研究委員会
情報処理センター運営委員会
人間文化研究科後期選考会議
- 12日(木) 留学生センター運営委員会
- 13日(金) 茶水会総会
- 16日(月) 学生相談室運営委員会
附属学校教育研究委員会
- 18日(水) 代議員会
就職ガイダンス
学務委員会
- 19日(木) 保健管理センター運営委員会
広報委員会

- 20日(金) 大学見学会
- 23日(月) ジェンダー研究センター運営委員会
留学生センター運営委員会
学長補佐会議
附属学校委員会
臨時附属学校連絡会
- 24日(火) 厚生協力会役員会
部局長会議
人権委員会
親和会役員会
セクハラ相談員に係わる講演会
- 25日(水) 評議会
補講日・前学期末試験(～31日)
「国立大学の構造改革の方針」につ
いての全学説明会
- 27日(金) 事務連絡協議会
公益法人実施検査
- 30日(月) 留学生センター運営委員会
学長補佐会議
- 8月1日(水) 夏期休業開始
平成13年度文化系・体育系サークル
リーダーズ研修
- 3日(金) 臨時部局長会議
- 16日(木) 学長補佐会議
- 20日(月) 臨時部局長会議
- 30日(木) 人間文化研究科博士前期課程入試
(～31日)
- 31日(金) 学長補佐会議

〔お詫び・訂正〕

学報第200号(13. 5. 1) 114頁学科主任の表中、理
学部物理学科 菅本晶夫教授は今井正幸教授、生活科
学部人間生活学科 無藤 隆教授は戒能民江教授の
誤りでした。

ここにお詫びして訂正いたします。